

日本道路清掃技術協会の理念

道路は、私たちの生活や社会経済活動に無くてはならないものであり大切な財産です。
これらの財産を良好な形で後世へ引き継いでいくことは私たちの重要な使命です。

健全な 道路環境の維持

道路及び付属施設等が安全で衛生的な環境を保つため、清掃必要箇所の提言を行い、より快適な**道路環境の維持**と美化に努めます。

道路利用者の 安全確保

道路清掃において、付属施設等の環境整備全般に寄与していきます。通常の道路清掃スタッフは作業機械を熟知し、**災害時**には復旧作業や**地域住民のサポート**の重要な担い手となっています。

技術向上

AI・IoT技術を搭載した清掃車などを駆使して安全に清掃活動を実施出来るよう、清掃技術者も**講習会**や**資格取得**を通じて**知識**を得ることで常に技術を高めています。

当協会では、道路清掃作業を通じ、
道路環境・安全確保・技術向上の3つのキーワードを基に
社会の一員として活動を進めて参ります。

事業方針

- ・道路美化意識の啓発普及
- ・道路における清掃業務に関する技術の向上と改善並びに調査研究
- ・安全管理に関する調査研究並びに資質の向上を図るための調査研究および講演会、研修会等の開催
- ・道路における清掃業務に関する行政への提言等

道路清掃業界が抱える課題

道路清掃・維持管理費の削減

平成22年の事業仕分け以降、道路清掃予算は削減され、未だに回復されず、さらに人件費や塵埃処分費の高騰により、適切な維持管理に支障をきたしているのが現状です。



道路清掃従事者・オペレーターの確保

災害派遣などで必要な重機オペレーターが不足しており、災害時の迅速な対応のためにも技術者の確保は急務となっています。また若手の人材の減少も大きな問題です。



年間稼働日数の不足

協会会員各社としては、最低でも月20日程の稼働により安定した人材を確保し、地方自治体や民間からの業務を受注しなければ成り立たず、災害派遣要請への対応が充分できない状況に陥っています。



人力による負担の割合

清掃頻度の減少により、設計通りの機械清掃では、堆積物の除去は不可能となっています。人力による作業で清掃を行うしか手段がなく、危険を伴う長時間の苦渋作業は困難であることから、人材の確保、定着に影響が出て本来清掃が必要な箇所が手つかずのままとなっています。



日本道路清掃技術協会は、これらの課題に真摯に向き合うことで
業界全体の業務効率化と安全性を向上させ
快適な道路環境の維持に日々取り組んでいます。

道路清掃の実態

美しい道路の維持と課題

の解決に向けたさらなる取り組みを

道路清掃を適正な回数に増やし、適正なスタッフの人数を

確保することで世界に誇れる日本の美しい道路を維持することが出来ます。

変わらない道路環境の 安心安全を守るために

道路付属物の点検は橋梁・トンネルなど、
2022年度までに3万2,854箇所を実施されましたが、
清掃関係は疎かになっています。

今後、**建設50年が経過する橋梁等が増加**していくことから、
当協会は、不具合が生じる前に対策を行う**予防保全**が
インフラ維持管理の主流と考え、
道路環境維持に向けた取り組みを提案しています。



道路清掃

主な作業：国道の路面清掃／中央分離帯清掃／歩道(地下)清掃／道路の補修



道路の安全を確保

全国の国道や都市部を中心に、定期的な道路清掃活動を実施しています。清掃回数が少ない場合、土砂や落ち葉が堆積し、排水機能の低下を招くことで道路冠水のリスクが高まり、車両の通行や点検作業にも支障をきたします。
協会ではこれらの問題解決に向けて、清掃の頻度向上や技術の改善に取り組んでいます。

排水構造物清掃

主な作業：側溝や排水溝の清掃／排水管の土砂除去／人力での堆積物除去／国道沿いの排水施設清掃



良好な道路環境の維持

側溝などに落ち葉や土砂、ビニールなどが堆積すると、道路冠水を引き起こし、通行の妨げとなります。それだけでなく、道路の空洞化や法面の崩壊を引き起こす恐れもあります。
良好な道路環境を確保し、事故を未然に防ぐために、協会会員各社は、調査や清掃必要箇所の提案を行っています。

橋梁排水施設清掃

主な作業：人力での土砂除去／高圧洗浄機での清掃／目視での漏水確認／雨水樹の洗浄



排水機能を守りリスクを減らす

橋梁の排水管や側溝、排水溝などを点検し、高圧洗浄機などを使用して排水を妨げる堆積物を取り除きます。
目視による排水パイプの漏水確認なども丁寧に実施し、これらの取り組みによって橋梁の排水機能を維持するとともに、耐久性の向上や周辺環境の安全確保に努める必要性を提言しています。

橋梁ジョイント清掃

主な作業：土砂等の堆積物除去／ジョイント下樋清掃／支承部の機能回復



耐久性と安定性を保つ

橋梁の連結部分に堆積する土砂等を取り除き、スムーズな排水機能を確保します。ジョイントは、橋桁の伸縮を吸収して橋梁を保護する装置ですが、清掃を怠ると伸縮装置の機能を果たせず、橋に余計な負担が掛かり、また、支障等への漏水により腐食する可能性があり橋全体の寿命に影響します。
大掛かりな通行止めが必要になるため、ほとんどが夜間の作業となります。

トンネル清掃

主な作業：壁面の清掃／照明設備の洗浄／排水溝の清掃／床面の清掃



安全で快適な通行を支える

トラックや自動車等が通行する際に排出される排気ガスの有害物質やすすがトンネル壁面に付着することで壁が黒ずみ、トンネル内が暗くなり広いトンネルでも狭く感じたり、照明があっても十分な明るさを確保できず安全な通行が妨げられたりすることがあります。
こうした状況を改善しトンネル内の安全な通行を確保するために壁面・照明設備等の清掃は重要な役割を果たしています。

災害支援活動

災害時の体制整備と、災害

災害派遣要請に応え続け、効果的な被災地の復旧支援を

対応に向けた技術を育てる

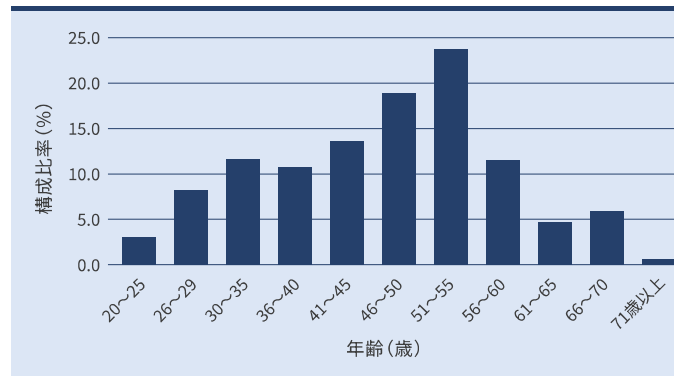
行うためには、人材の確保が欠かせません。

災害時も、 必要不可欠な存在に

地震、風水害、雪害などの災害が発生した際、協会会員各社は排水ポンプ車、給水車、散水車・災害対策車などを派遣し、適切な機械操作を行い、迅速な支援活動を実施してまいりました。

一方で、通常道路清掃業務の減少に伴い、災害現場で作業を行う**重機オペレーターの人材不足**が今後ますます**深刻化**してくるのが現状です。

若手の人材不足が顕在化し、高年齢化する
重機オペレーターの年齢構成比率



出典：一般社団法人日本道路清掃技術協会

当協会の災害派遣に対する対応、心構え



対策

日頃の準備を怠らないことで、出来る限り迅速かつ的確な災害対応を行える技術力を養う。



強化

災害対策用機材の構造・取扱技術を磨き、現場での対応力強化を常に目指す。



対応

現地での行動に責任を持ち、安全確保を第一に臨機応変な対応ができるように技術力を高める。

風水害被災後の活動

路面清掃車や人力による土砂搬出業務のための災害派遣が急増しています。道路に流れ込んだ汚泥が乾燥し**呼吸器疾患の原因**になることが多く、**早期に汚泥を除去**することが求められます。

大規模災害の支援

能登半島地震では、散水車21台、延べ1,500人以上の人員を派遣。大規模災害では、広範囲で長期に渡る活動となり、**交替要員、睡眠時間の確保のため、多くの人材が必要**となります。

近年発生した風水害における災害派遣・活動内容

風水害現場においても、通常行っている土砂や汚泥の搬出が主たる業務となります。



令和6年7月に発生／山形県の豪雨災害
最上町瀬見地内にて路面清掃実施。



令和4年10月に発生／静岡県の豪雨災害
静岡市にて路面清掃実施。



令和6年7月に発生／山形県の豪雨災害
最上町瀬見地内にて路面清掃実施。



宮城県南相馬市
市街地に流れ込んだ水を排出する様子



石川県輪島市
仮設トイレへの給水の様子



石川県七尾市
自衛隊と連携した入浴支援の様子

現場の声

現場の状況

台風の接近に伴い線状降水帯が発生し、複数の河川が氾濫、住宅地などが広範囲にわたって浸水。

現場活動経験者の声

自治体からの要請で、道路に堆積している土砂が乾燥し粉塵になる前に路面洗浄を行いました。地域の方々の健康を損なわないよう丁寧な洗浄を心がけ、路面清掃車で取り切れない堆積土砂は人力で土砂を搬出するなど、かなり過酷な業務ではありますが、その重要性を体感できました。



現場の声

現場の状況

富山市から珠州市への移動は、道路が崩壊していたため片道10時間以上かかった。

現場活動経験者の声

1月1日から派遣準備を行い、1月3日には現地で給水活動に従事しました。余震や法面が崩落するなどの危険もありましたが、車中泊をしながら連日給水活動を実施。病院や仮設トイレへの給水など生活に欠かせない支援を行った一方、毎回給水箇所が異なるなど、状況に合わせた臨機応変な対応が求められました。



■ 協会としての取り組み

意見交換会	発注者と受注者の双方が抱える公共工事(道路清掃)の諸課題の改善に向けて、各地方整備局(東北・関東・北陸・中部)との意見交換を行っています。
技術講習会 (学科・実技)	清掃作業従事者の技術習得と現場管理者としての資質向上が目的で、一定以上の能力に達した技術者には「道路清掃技術者認定書」を授与しています。
安全研修会	道路清掃事業を通じた道路美化や道路環境向上に向けて、東京道路清掃協会と共催で、国土交通省、東京都、警視庁より講師を派遣して頂き、安全研修会を開催しています。

■ 沿革

1964 (昭和39年)	9月 ● 「日本道路サービス協会」設立 東京オリンピック開催を機に、道路環境に対する関心が急速に高まったことで事業者が増加。適切な業務遂行を目指すため、業界有志により「日本道路サービス協会」を設立
1966 (昭和41年)	3月 ● 業務拡大に伴い、組織再編 業務拡大に伴い、「日本道路サービス」を母体とした「日本道路清美協会」と「東京道路美装協会」の2団体を設立
2013 (平成25年)	1月 ● 「日本道路清掃技術協会」に改称 「日本道路清美協会」から「日本道路清掃技術協会」に改称
	6月 ● 沓掛 哲男氏 会長就任 沓掛 哲男氏が「一般社団法人日本道路清掃技術協会」会長に就任
2019 (令和元年)	6月 ● 辻 靖三氏 会長就任 辻 靖三氏が「一般社団法人日本道路清掃技術協会」会長に就任
2023 (令和5年)	6月 ● 田中 康順氏 会長就任 田中 康順氏が「一般社団法人日本道路清掃技術協会」会長に就任

一般社団法人

日本道路清掃技術協会

東京都港区芝浦4丁目17番4号日本ロードビル
TEL：03-6435-1664 FAX：03-6435-1665
Email：jimukyoku1@seisougijutsu.or.jp



www.seisougijutsu.or.jp

清掃で広がる
安心な社会



一般社団法人 日本道路清掃技術協会

事業のご案内